



大博多カントリー倶楽部が5連覇(11度目V)達成



11度目の優勝の
大博多カントリー倶楽部のメンバー

2位は1打差で大分竹中カントリークラブ

ベストグロス賞は69の衛藤仁秀(ザ・クラシックゴルフ倶楽部)が獲得

連盟主催競技唯一の団体競技。加盟倶楽部の実力、名誉をかけた戦いは例年、熱く盛り上がるが、今年は福岡県朝倉郡筑前町の夜須高原カントリークラブ(6629㌦、パー72)を舞台に試合が展開された結果、大博多カントリー倶楽部(福岡県南部地区)がトータル371のスコアで5年連続、11回目の優勝を飾った。5連覇は第6回大会から5年連続優勝の沖縄国際GCに並ぶ連勝記録。また、出場選手中のベストスコアに贈られるベストグロス賞は69で回った衛藤仁秀(ザ・クラシックゴルフ倶楽部)が獲得した。

1チームは学生を除く6人(うち55歳以上3人以上)で構成。このうち5人の合計打数で順位を争う団体戦。今大会には九州11県地区で行われた競技大会(予選)に183倶楽部チームが参加。この中から24倶楽部が決勝大会に進出し、開催倶楽部と合わせた25倶楽部で競技が行われた。

晴れて気温25.9度、西北西の風2m(正午現在)。秋晴れの下、絶好のコンディションの中で戦われた倶楽部対抗だったが、優勝した大博多CCはエースの坪井卓哉が71のほか全員が70台のスコアをマークするなど、安定したゴルフを見せた。

大分竹中CC(大分県地区)も高橋誠一、松山雅光がアンダーパーで回ったものの、トータルで1打及ばず2位で、5年ぶりの優勝は成らなかった。



ベストグロス賞の衛藤仁秀



さらに2打差、374には佐賀カントリー倶楽部（佐賀県地区）とミッションバレーゴルフクラブ（福岡県北部）が並んだが、規定により6人の合計打数差で佐賀CCが3位に入った。

なお、この大会で徳永洋（かごしま空港36）が13番（154ヤード、パー3）でホールインワンを記録した。

写真は成績速報版に見入る選手、関係者

「優勝できたのは一生懸命の褒美」

大博多CCの篠塚武久監督

2年連続で1打差の勝利。「5人のトータルスコアで1打差なんて、運としか言いようがありませんよ」と監督の篠塚武久さん（66）だった。もちろん、実力に裏打ちされての運だろう。試合を振り返ってもらうと、勝因として挙げたのは、「チーム戦ですからね、若手からベテランまで、それぞれの選手が最後まであきらめないというゴルフをした結果だと思います」ということだった。

大博多チームの特徴は、選手たちがアスリート志向で、技術だけでなく、ゴルフを通して社会人としてのマナーやエチケットにも磨きをかける「ゴルフ道の追及に熱心な者ばかり」と篠塚さん。普段の練習（研修）会でもメンバーがミーティングを重ね、みんなで技量を高めあっているといい、「（優勝は）その一生懸命さの褒美だと思います」と表情を緩める。

優勝スピーチでも口にしたが、「この大会は倶楽部の団結を盛り上げる最高の大会。この優勝をもってまた来年に向かって、スタートを切りたい」と連勝記録の更新に意欲的だった。（Kiku）